

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	3270100740		
法人名	ティー・シー・プラネッツ有限会社		
事業所名	グループホーム 遊空間		
所在地	島根県松江市南平台25-1 (電話) 0852-26-0670		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地			
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成20年1月4日

【情報提供票より】 (平成18年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 4月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要 (10月31日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	2	要介護2	2			
要介護3	5	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	83.3	最低	78歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 創健会 松江記念病院	・	河原歯科医院
---------	-------------------	---	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の閑静な住宅地にある民家を改造して作られたホームは、施設を感じさせず街の中に溶け込んでいる。管理者の「楽しんでもらう・日々の生活に役割を」という考えが職員に浸透し、利用者は日々掃除や家事等で役割を發揮している。利用者は鼻歌を歌ったり、音楽を聞いたり・テレビ鑑賞にと生活を楽しんでいる。自治会の忘年会で認知症の講演を行い、「明日はわが身」と関心を寄せられる等、地域の理解や交流も進展しつつある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ①運営推進会議の開催 ②家族や利用者の意見の把握と記載 ③運営理念の地域への啓発 ④入浴の改善等があげられ、①②については改善されている。理念の地域への啓発は努力があるものの、便りの発行回数や紙面の内容・配布先を多くしたりの改善が求められる。入浴は希望にそったものになるような対応が望まれる
	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は二ヶ月前より、職員全員で取り組んできた。職員は自己評価・外部評価共にその意義を十分理解し、「自己点検になる・自分たちが気がつかないところを指摘してもらえ」と改善や見直しに向ける積極的な姿勢を持っている。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 昨年11月から開始し3回目を迎えた。利用者の様子や諸行事・外部評価等の報告を行っている。参加者からは避難経路の意見が出たり、認知症についての理解を深めたい等ホームに期待を寄せる感想や要望が多い。出された意見は職員で検討し、運営に活かそうとしている。開催前には関係者を訪問して議題を知らせ、会議後は家族等に内容が報告されている。
	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 二ヶ月に一度の割合で家族向けのお便りを送っている。ホームでの行事や理念・職員の異動等を知らせたり、各利用者毎にホームでの様子や写真が掲載されている。家族の面会時はその都度健康状態等を報告している。運営推進会議や面会時に意見や要望を聞くようにしているがなかなか出てこない。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、年2回の地域清掃や夏祭り等に参加している。散歩時に挨拶や声掛けをしているが、住民のホームへの出入りは少ない。時折周辺住民からの差し入れがある。公民館活動や老人会活動等への参加はこれからの課題となっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「みんなで」支援していくことが理念にあげられているが、地域密着型サービスとして地域との連携による支援策を打ち出す等、理念を鮮明にしていくことが求められる。	○	地域密着型サービスとして「みんなで」どのようにしていくのか、地域や第三者に分かるような理念に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念がホーム内のいたるところに掲示してある。職員は理念を共有し自己目標等を念頭に置きながら日々の支援を行っている。	○	さらなる理念に基づいた支援のため、日々のミーティング場面や職員会議等で相互確認を行って頂きたい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の諸行事の案内を頂いたり、年2回の地域の掃除や夏祭り等に参加している。散歩時には積極的に挨拶や声掛けを行うようにしている。	○	公民館活動・老人会活動等に積極的に出かて行き、地域の方々との交流がさらに広がるような支援に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を十分理解しており、職員全員で自己評価に取り組んできた。評価項目だけでなく他にも目が向けられ、多くの改善をすることもできた。	○	改善への意欲的な姿勢がある。さらなる改善のため年間計画を立てる等して取り組んで頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年11月より、開始し3回目を迎えた。行政や民生委員・住民等が参加し、ホームでの諸行事や利用者の状態等が報告され、ホームへの期待の声や防災への意見も出されている。出された意見や要望は職員で検討している。	○	二ヶ月に一回の開催を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者は運営推進会議への参加をはじめ、利用者の入居の際にはホームに見学に来たりしている。管理者は生活保護等で保険課等関係部署と相談している。	○	地域全体の認知症の啓発活動や地域密着型サービスの質向上に繋がるような連携に取り組んで頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	二ヶ月に一回程度、ホームの行事や職員の異動等を掲載した遊空間だよりにより利用者の写真や様子を記して送っている。面会時にはその都度健康状態等報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はない。面会時や運営推進会議で意見や要望を聞くようにしたり、苦情窓口をお知らせしているが、なかなか出ないのが実情である。	○	意見が出しやすいような工夫や働きかけと共に家族アンケートの実施を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を重視しており、原則職員の異動は行っていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月「個別目標」を立て日々の業務に取り組んでいる。振り返りに管理者からコメントがあり職員育成に役立てている。職員採用時は一日研修や見習い期間を置いている。職員会議での学習もあるが、外部研修参加は十分とはいえない。	○	新しい知識やサービスの質向上のため外部研修の積極的な参加に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は小規模ケア連絡会に参加し、情報交換や施設の見学をしているが、職員間の交流にまでには至っていない。	○	同業者の交流会を定期的で開催したり、ホームの相互訪問や職員間の交流の場を持ったりして、地域のケアの質向上に取り組んで頂きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が徐々に馴染めるように家族と相談しながら見学や体験入居を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者「楽しんでもらう、役割を持ってもらう」ことが職員に浸透している。料理や掃除の仕方・作法等を教えてもらったり、共に取り組んだりと一方的にならないように、支えあう間柄作りを心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を聞くだけでなく、日頃の何気ない言動や会話等から本人の思いを把握するようにしている。困難な場合には職員から声を掛けて確認している。	○	以前の暮らしや生き方を把握し、さらにその人らしく中のある生活を送ってもらうような支援に期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族に利用者の過去の状況を聞き取ったり、本人から意見や要望を聞き、職員の意見を出し合いながら介護計画を作成している。センター方式が採用され情報収集も細かく行われ、計画も個別性のあるものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングが実施され、三ヶ月に一回の見直しが行われている。状態に変化があればその都度見直しを行い、改善に向けて新たな計画を立てている。	○	きめ細かな支援を行うために、一ヶ月に一度の見直しを行って頂きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診の際の付き添いは原則家族としているが、要望や本人の状態・緊急時等勤務変更を行う等臨機応変に対応している。ショートも利用できる。時には家族に宿泊提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望により整形外科や精神科等のかかりつけ医に受診してもらっている。普段は協力医療機関と連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症ケアに力点を置いた運営が考えられターミナルケアを行わない方針を取っている。入居時に相互で確認され、重症化したりターミナル期が近づくと関係者やかかりつけ医と相談して支援している。	○	医師の支援体制や施設等ハード面での困難さがあると思われるが、重症化対応やターミナルケアの実施に向け、関係者の検討を開始して頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の失敗等周囲に分からないように対応したり、個々人の行動に対しても自尊心を傷つけないような支援に心掛けている。記録物にも注意を払い職員間の話し合いで改善している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や体調にあわせて散歩やお茶をしたり、希望に合わせて居室で食事を摂ってもらったりしている。	○	ホームの流れや職員の都合で動くのではなく、利用者のペースが尊重されるような対応にさらに心掛けて頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は役割を持ち職員と一緒に野菜きりや盛り付け・後片付け等を行っている。職員は見守りをしたり、会話をしながら二ヶ所のテーブルで利用者と同じ食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしている。一日置きや午後の時間帯の入浴となっており、利用者の希望に沿ったものとなっていない。入浴できない時は足浴している。	○	利用者の希望に沿った入浴ができるよう体制作り等を工夫して頂きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は食器洗いや掃除・洗濯物たたみ等の役割を持っている。テレビが好きな人には番組案内したり、編み物や裁縫が好きな人には誘導して楽しんでもらうよう等の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調・天候等により近隣の公園や住宅地を散歩したり、戸外に出て日光浴をしているが十分とはいえない。受診時に食事や買い物をする機会をつくり楽しんでもらうようにしている。	○	近くの公園への散歩や日光浴の頻度を多くしたり、職員の外出時に同行してもらおう等実情に応じた工夫を期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠され夜間は施錠している。センサーで利用者の出入りを把握している。居室も鍵をかけていない。外出願望者には同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し年2回の避難訓練を実施している。夜間の災害に備え夜勤者間で良く話し合っている。非常食等の備蓄品を備えているが十分とはいえない。	○	災害時にはより多くの地域の方々の協力が得られるよう、関係者への働きかけを期待したい。三日間程度の備蓄品の確保をお願いしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量はきちんと記録されている。トロミを付けたりと利用者の状態に応じた支援を行っている。栄養バランスにはカロリー表等を活用している。	○	栄養士や保健師による栄養バランスのチェックを再開して頂きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下・窓際に花や観葉植物が飾られ家庭的な雰囲気がある。ソファも置かれ利用者が思い思いに過ごすようになっていたり、壁には敬老会や干し柿作りの写真が貼られ日頃の生活が分かるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談協力し、今まで使っていた馴染みの家具や寝具・ベット・自分で書いた習字等が持ち込まれ、居心地の良い空間となるよう心掛けられている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。